

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

SAFP 500DRD1～1000DRD1

PSA012D867C

- 本説明書は“室内ユニット”について示したものです。“総合工事仕様と室外ユニット”については、
室外ユニットに付属の“据付説明書”を御覧ください。

但し、電源容量・配線仕様のみ本書に基づき施行してください。

尚、他の事項(組合せ台数・容量、冷媒配管、冷媒量、その他注意事項等)は右表の機種照合で御覧ください。

適用機種

外気処理ユニット
(直膨コイル付)

500 (相当容量 28)

750 (相当容量 45)

1000 (相当容量 56)

据付のまえに

- 据付はこの据付説明
書に従って正しく行
なってください。
○工事計画にあつてお
りますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品

配 管 関 係

1	パイプカバー		2個	ガス管、給水(加湿器)管接続部用(内径φ32)
2	パイプカバー		1個	液管接続部用(内径φ28)
3	バンド		6個	パイプカバー用

工事完了後、これだけは再チェック願います。

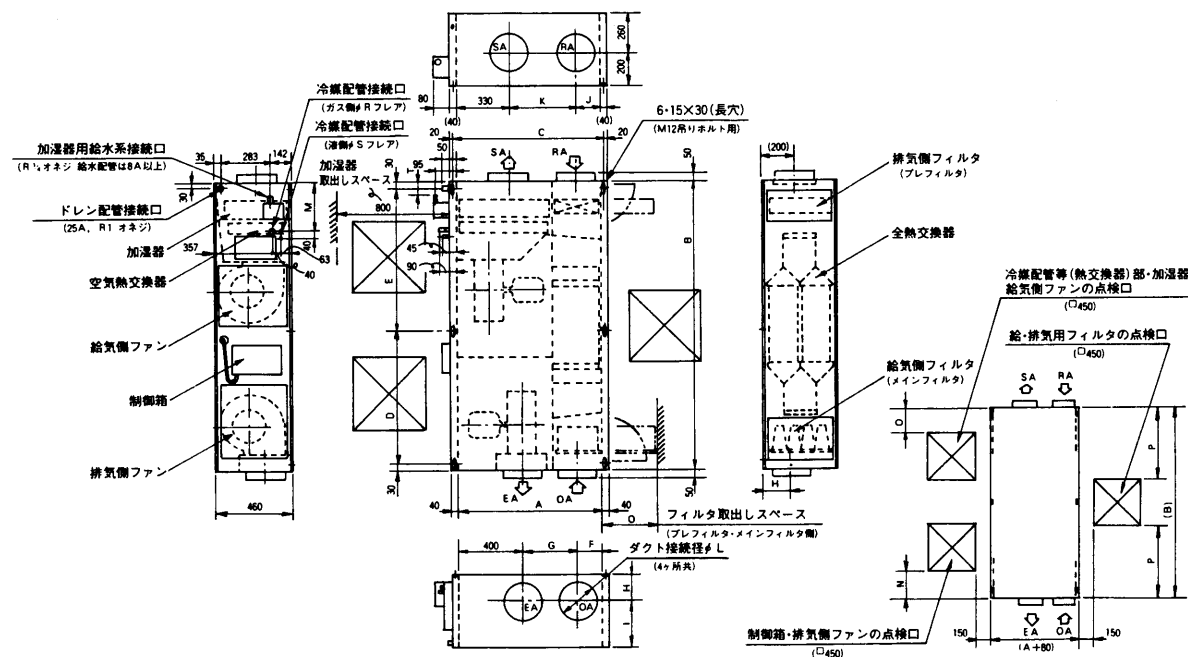
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・ 焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・ 焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様とおりですか。	運転不能・ 焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない、	

据付場所の選定

この室内ユニットは屋外に設置することはできません。
(お客様の承認を得て据付場所を選んでください。)

(室内ユニット)

据付スペースと配置図



- 冷風または温風が十分行きわたる所。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- ドレン排水が完全にできる所。
- 据付部の天井が強固である所。
- 吸込口、吹出口に風の障害物のない所。
- 天井裏高さは、ドレン勾配のとれる所。
- 油の飛沫や蒸気の多い所はさけてください。
- 高周波を発生する機械がある所はさけてください。

点検口配置図

注) ユニット上面より見た配置図

形 式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
500(28)	910	1650	950	700	890	155	355	160	300	155	425	250	260	150	200	600	300	12.7	6.35	50
750(45)	1120	1700	1160	710	930	260	460	160	300	260	530	250	295	200	200	625	590	12.7	6.35	70
1000(56)	1310	1800	1350	750	990	355	555	180	280	355	625	300	330	200	300	675	790	15.88	9.52	90

●ユニットに対する点検口および点検スペースなど上図の“配置図”を御覧ください。

空気条件

○1) 上 限……ユニット周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。(高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、露付に対する配慮をしてください。)

○2) 下 限………0℃DB

くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。

○風量は必ず、下記「ダクト工事」部に記載の下限～上限範囲内で使用してください。

ユニットの搬入、据付

搬 入

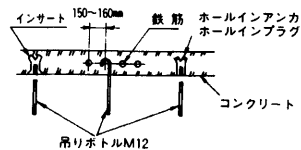
○搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。

○ワイヤロープで吊り上げる場合は本機の重量にみあった太さを選び本枠下面にかけてください。

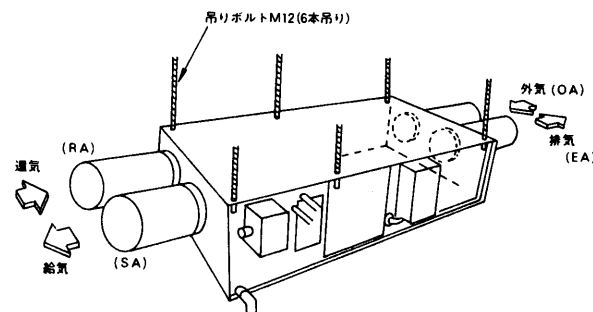
機 種			500 (28)	750 (45)	1000 (56)
梱包寸法	高 さ	mm	5 60	560	560
	奥 行	mm	1 800	1850	1950
	幅	mm	1 160	1370	1560
梱包質量		kg	1 60	190	220
製品質量		kg	1 30	150	170

据 付

下図の方法で吊りボルトを固定してください。



○ユニットは必ず水平に吊り下げてください。
水平がでていないとドレン水が留り(冷房時の凝縮水、暖房時加湿器の余剰水等)悪臭および発錆の原因となります。



ダクト工事

1. 風量は必ず下表の使用可能範囲内にしてください。

送風機特性

1) 使用範囲

50/60Hz

機種	風 量 (m³/h)			* 機 外 静 圧 (mmAq)			
	定格	使用可能		給 気 側		排 気 側	
		下限	上限	Hタップ	Lタップ	Hタップ	Lタップ
500(28)	500	400	600	20/20	10/5	23/23	14/5
750(45)	750	600	900	21/30	12/12	27/36	23/25
1000(56)	1000	800	1200	20/27	14/13	24/32	19/18

注) ※HおよびLタップにおける定格風量時の値を示す。

- 2) Hタップ……………切替スイッチ (S_s又はS_e) が高静圧側を示します。
Lタップ……………切替スイッチ (S_s又はS_e) が低静圧側を示します。

2. エアコン本体の振動が外壁および天井に伝わらないようにダクトは、キャンパス継手により防振してください。
3. 吹出部および吸込部から空気漏れのないことを確認してください。
4. 屋外への吹出および吸込等の外壁貫通部は必ず雨水の侵入を防ぐ構造にしてください。
5. 吹出、吸込ダクトの保温施行は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
6. 防火区域の適用を受ける建物に設置する場合、ダクトに防火ダンパ(FD)を設けてください。
▷本ユニットは、建築基準法令第百十条の防火戸の構造の乙種防火戸と同等性能。(鉄板厚さ0.8mm以上)
7. ユニット本体には給気側フィルタおよび排気側フィルタが組込んでありますが更に両者の吸込グリル部に掃除の容易なフィルタを設けられることをおすすめします。

(給気側フィルタ……………洗浄再生不可)
(排気側フィルタ……………洗浄再生可)

3) 排気側のみ手動ダンパにて機外静圧の補正をすることが出来ます。

4) 出荷時は下記の状態にセットしてあります。

- (1) 給気側 — Lタップ(スイッチS_s・低静圧側)
(2) 排気側 — Lタップ(スイッチS_e・低静圧側)でかつ静圧補正用手動ダンパ巾は
500(28)……………全開 (開口巾は155mm)
750(45)……………全開 (開口巾は219mm)
1000(56)……………全開 (開口巾は300mm)
の状態にしてあります。

冷媒配管

▷冷媒配管の接続位置は上図の“配置図”を御覧ください。

(室外ユニットの結線銘板に「系統名」と「冷媒封入量」を記載する欄がありますので、その系統名と封入量を記入しておいてください。)

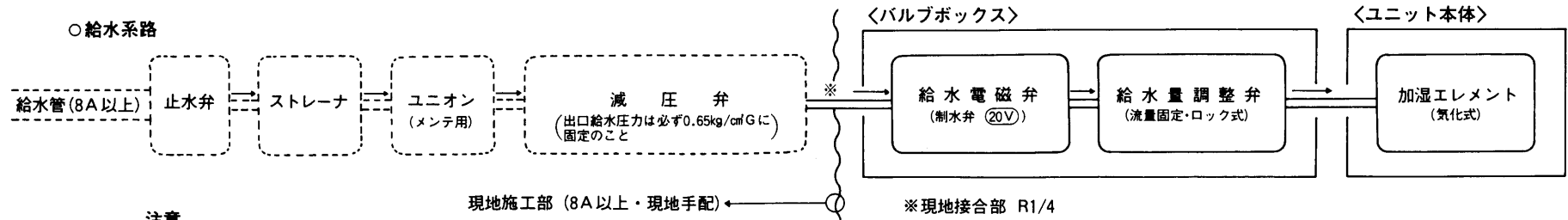
○配管径・接続方法

機 種	ガ ス 側		液 側	
	配 管 径	接 続 方 法	配 管 径	接 続 方 法
500(28)	φ 12.7×t1.0	フレア接続	φ 6.35×t0.8	フレア接続
750(45)				
1000(56)	φ 15.88×t1.0		φ 9.52×t0.8	

注意：冷媒配管 (ガス側・液側共) は必ず断熱材で確実に保温 (断熱) してください。

給水(加湿器)配管

▷現地給水配管系の接合サイズはR1/4(8A)です。尚、給水管は必ず8A以上を使用してください。

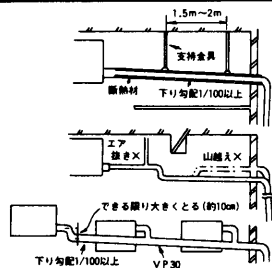


- 1) 供給水は必ず水道水(市水)又は上水を使用してください。
- 2) 供給水温度は5℃～40℃の範囲で使用してください。
- 3) 減圧弁、ユニオン、ストレーナ、止水弁を必ず取付けてください。(現地手配品)
- 4) 減圧逆止弁は必ず供給水2次側圧力0.65kg/cmGに調整してください。

- 5) メンテナンス時のためユニオン接続しておいてください。
- 6) 給水量調整弁は出荷時に流量調整の上ハンドルロックしてありますので、再調整の必要はありません。
- 7) 接続管内にゴミ、切粉等が入らない様注意してください。
- 8) 室内および天井内の給水系は必ず断熱材で確実に保温(断熱)してください。

ドレン配管

▷ドレン配管の接合サイズはR1(25A)です。ドレン配管は必ず25Aを使用してください。



- ドレン配管は下り勾配(1/50～1/100)とし途中山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管V P-25を使用してください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約10cm下に集合配管がくるようにしてください。
- また集合管はV P-30以上を使用してください。
- 室内および天井内にあるドレン配管は必ず保温してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。

仕上げ補修

○下記の配管部を確実に保温してください。(特にユニット接続部および中継部に隙間のないこと。)

- 1) 冷媒配管(ガス側・液側共)は必ず断熱材で確実に保温してください。
 - 2) 加湿器用給水配管は必ず断熱材で確実に保温してください。
 - 3) ドレン配管は必ず断熱材で確実に保温してください。
- (尚、テーピング時にドレン配管が持ち上がらないように注意してください。)

電気工事及び試運転

ユニットに同梱の電気配線工事説明書を御覧ください。

MEMO

セゾンマルチシリーズ 電気配線工事説明書

SAP 500DRD1～1000DRD1

PSB012D820

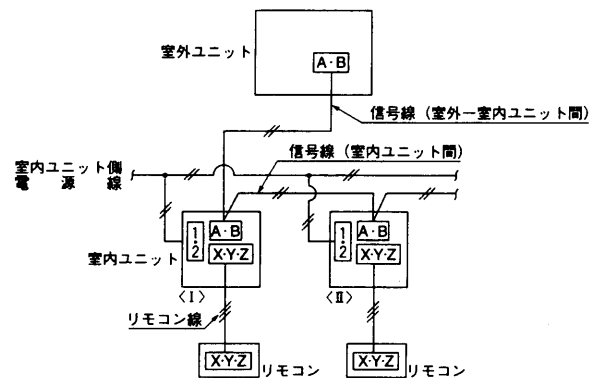
電気配線工事説明書

電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線接続

配線系統図

〔室外・室内ユニット接続要領〕



記事 1. 本配線仕様は、

- 1) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源
- 2) 電気ヒータ（別売品）含まず

にて記載してあります。

注) 別売の電気ヒータを組込む場合は、電源仕様、配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。

安全上の注意事項については、ユニット付属の据付説明書に記載してありますので、必ずご参照いただきますようお願いいたします。

2. 電源仕様

室内ユニット用			
配線用しゃ断器 定格電流 (A)	室内ユニット 合計電流 (A)	10A未満	20
		10A以上15A未満	30
		15A以上22A未満	40
		22A以上27A未満	50
漏電しゃ断器 定格電流 (A)		10A未満	20,30mA・0.1sec以下
		10A以上15A未満	30,30mA・0.1sec以下
		15A以上22A未満	40,30mA・0.1sec以下
		22A以上27A未満	50,100mA・0.1sec以下

室内ユニット接続線は5.5mm²まで可能です。8mm²以上は専用プルボックスを使用し室内ユニットへ分岐してください。

3. 配線仕様

電源配線		室内ユニット間電源配線		信号線	
室内側		系統間		室外～室内(1)	室内(1)～(2)～
		mm ² ×本数		mm ² ×本数	
室内 ユニット 合計電流 (A)	10A未満	2×2本 (こう長23m)		0.75 / 2.0 ×2本	0.75 / 2.0 ×2本
	10A以上15A未満	3.5×2本 (こう長23m)			
	15A以上22A未満	5×2本 (こう長23m)			
	22A以上27A未満	8×2本 (こう長23m)			

注) 内線規定に従い、配線こう長より配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ (224H, 280H, 560H) の場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

- (1) 自動アドレス設定
- (2) 手動アドレス設定
- (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線

リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当る場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

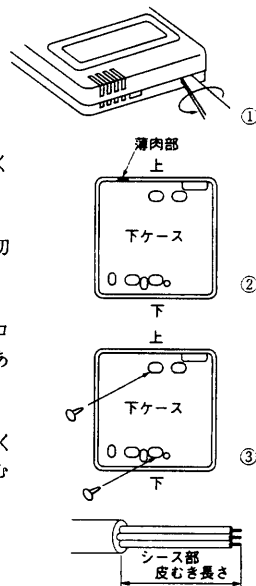
- ① リモコンケースをはずしてください。
 - リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
 - リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：①赤線、②白線、③黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

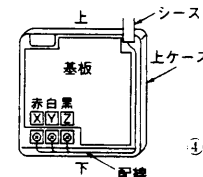
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
白：205mm
赤：215mm



- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥ リモコンコードをコードランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

【機能の設定】の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

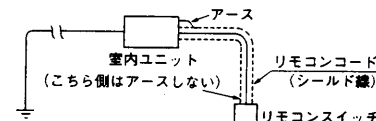
コードは必ずシールド線を使用してください。

● 全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕

注(1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100～200m以内……0.5mm²×3心
- 300m以内……0.75mm²×3心
- 400m以内……1.25mm²×3心
- 600m以内……2.0mm²×3心

● シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

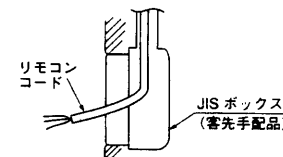


埋込取付

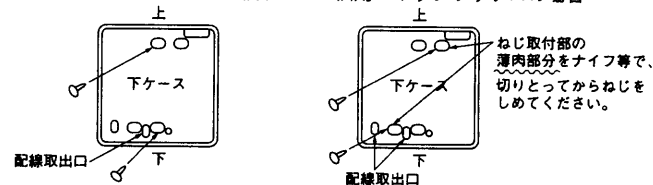
- ① JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
- 2個用スイッチボックス

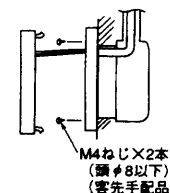


1個用スイッチボックスの場合 2個用スイッチボックスの場合



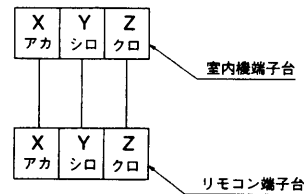
- ② リモコンの上ケースを外してください。
- ③ 下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④ リモコンコードをリモコンに接続します。
- 【露出取付】の項をご覧ください。
- ⑤ 上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

【機能の設定】の項をご覧ください。



リモコンと室内の配線

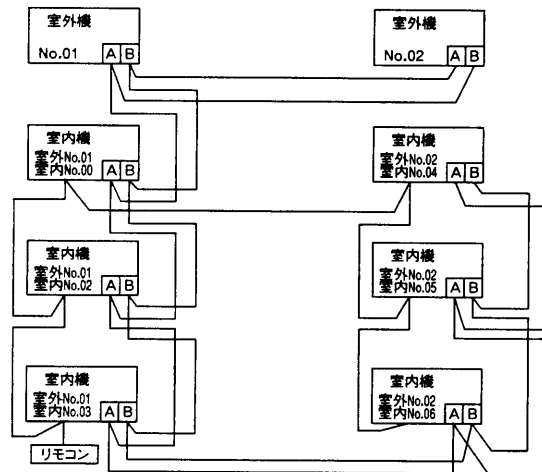
- リモコン配線は極性があります。必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台 X Y Zに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



電源投入後、リモコンの[エアコンNo]を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

ご 注 意

据え付け時、本機の機能設定が必要です。
リモコンスイッチより下記設定を行ってください。
設定方法は、リモコンに附属の据付説明書をご覧ください。

リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C
05	自動運転設定	自動運転有効を、自動運転無効へ変更。
06	風量調整	風量調整有効を、風量調整禁止へ変更。
07	風向調整	風向調整有効を、風向調整禁止へ変更。

※自動運転有効のまままで運転しますと、運転モード無効の表示がでる場合があります。
※風量調整または風向調整有効のまままで運転しますと、リモコンから風量、風向の設定はできませんが、室内機には機能はないため作動しません。

本機の設定可能項目と工場出荷時の設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	○
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	○
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○

(2) 室内機能

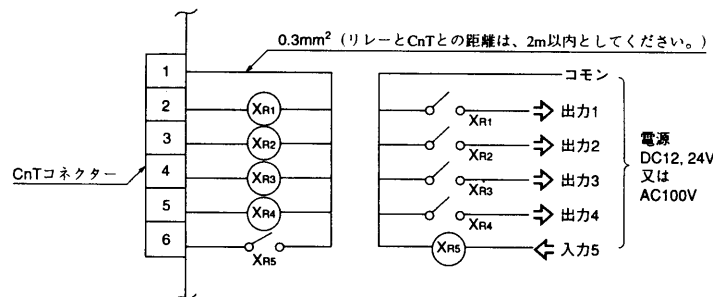
機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効 リモコンセンサ有効	○
10	停電補償設定	停電補償無効 停電補償有効	○
12	温度範囲設定	表示変更有 表示変更無	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	○
14	冷専/ヒートポン	冷専 ヒートポン	○
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有 エラー表示無	○

④ 制御の切換

室内機の制御内容を、下記方法にて切換可能です。

	制 御 切 換 方 法	制 御 切 換 内 容																																																																						
室 内 機	室内基板〔SW-5〕のNo.1をON	遠方発停入力（CNT-No.6）切換 出荷時…レベル入力（反転できない） ↓ 切 換…パルス入力（反転）																																																																						
	室内基板〔SW-5〕のNo.2をON	暖房時設定温度+3℃																																																																						
	室内基板〔SW-5〕のNo.3をON	ドレンモータ運転																																																																						
	室内基板〔J-2〕切断	オートスイング4位置制御ナシ（フリー位置制御）																																																																						
	室内基板SW-6のNo.1～4のON・OFFを切換える。	<table><tr><td>機種</td><td>22H</td><td>28H</td><td>36H</td><td>45H</td><td>56H</td><td>71H</td><td>80H</td><td>90H</td><td>112H</td><td>140H</td><td>160H</td><td>224H</td><td>280H</td></tr><tr><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 0はOFF、1はON	機種	22H	28H	36H	45H	56H	71H	80H	90H	112H	140H	160H	224H	280H	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	機種	22H	28H	36H	45H	56H	71H	80H	90H	112H	140H	160H	224H	280H																																																										
	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1																																																										
	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1																																																										
	3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0																																																										
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1																																																										
室内基板〔J-3〕切断	暖房サーモOFF時に室内ファンが停止する。																																																																							
室内基板〔J-4〕切断	フィルタサイン無効（検知しない）																																																																							
室内基板〔J-5〕切断	運転許可禁止制御																																																																							
室内基板SW-9のNo.1,2のON・OFFを切り換える （4方向吹出し、 4方向吹出しコンパクト）	オートリフトパネルの昇降長さの設定 <table><tr><td></td><td colspan="2">50Hz地区</td><td colspan="2">60Hz地区</td></tr><tr><td>昇降長</td><td>SW9-1</td><td>SW9-2</td><td>SW9-1</td><td>SW9-2</td></tr><tr><td>1.3m</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>OFF</td><td>OFF</td></tr><tr><td>1.6m</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr><tr><td>2m</td><td>ON</td><td>ON</td><td>OFF</td><td>ON</td></tr></table>		50Hz地区		60Hz地区		昇降長	SW9-1	SW9-2	SW9-1	SW9-2	1.3m	ON	OFF	OFF	OFF	1.6m	OFF	ON	ON	OFF	2m	ON	ON	OFF	ON																																														
	50Hz地区		60Hz地区																																																																					
昇降長	SW9-1	SW9-2	SW9-1	SW9-2																																																																				
1.3m	ON	OFF	OFF	OFF																																																																				
1.6m	OFF	ON	ON	OFF																																																																				
2m	ON	ON	OFF	ON																																																																				
室内基板〔J-1〕切断	ルーバ角度切換																																																																							

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



- XR1~4はDC12Vリレー (オムロン製LY2F相当品)
- XR5は、DC12、24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端 子	モレックス	5263T

●機 能

出力1	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)	
出力4	エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)	
入力5	出 荷 時	XR5 OFF⇒ON エアコンON
		XR5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現 地 切 換 (SW5のNo.1をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ (別売品) の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ 試 運 転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑦ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 工事完了後のチェック項目

- ☐ 電源電圧は本体表示と同じですか。
- ☐ 室外機側でアース工事はされていますか。
- ☐ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- ☐ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。